



桜山小だより

【学校教育目標】

- ・（知）夢を持ち楽しく学ぶ子
 - ・（徳）心豊かに思いやる子
 - ・（体）健康でたくましい子
- ～ともに夢を育む感動体験を通して～

5月号

令和7年5月26日発行

校長 ニロ 法子



主体的・対話的で深い学びと発達の支援

グローバル化の進展やAI技術の発展など、変化が著しく予測困難な世の中で、自ら課題を解決し、たくましく生きる子どもたちを培うために、学校は現行の学習指導要領を基準として学校の教育課程を編成しています。そして各教科において、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を日々行っています。児童が主体的に考え、仲間と意見を交換しながら、自分自身を見つめなおし、振り返り、学びを深めています。

学びで大切なことは、主体的に問題を発見し考え、仲間との議論を深める多面的・多角的な学習を広げていくことです。実は日本では古くからこのような学びを大切にしてきました。能の創始者観阿弥は著書「風姿花伝（ふうしかでん）」で、「能を演じる者は、演じているもう一人の自分を見つめ演じている自分の存在が大切」と述べています。「もう一人の自分」を意識する力を心理学ではメタ認知能力といいます。主体的・対話的で深い学びという学習を支える力がこのメタ認知能力と考えることができます。「自分にとって今、何が問題となっているかを推論していく能力」「問題の解決方法を予測し、具体的な解決策の計画を立てる能力」「目標と結果を予測し、方策の続行や中止を柔軟に判断する能力」等もメタ認知能力です。主体的に自分を見つめ、粘り強く考え、仲間や先生と話し合いながら、深い学びが生まれる魅力的な授業の実践を行ってまいります。また、児童自身が学習活動ではない日常生活の中で選択や決断を行う際の発達段階に応じた力も身につけてほしいところです。ご家庭でのお子様とのやり取りの中で、「あなたならどうする？」「そうする理由は何だろう？」など、お子さん自身が考えを述べる場面を意図的に作っていただけますと幸いです。与えられるのを待つだけでなく、欲しい知識や情報等を自分から取りに行こうとする力を桜山小学校で身につけて、中学校へ羽ばたいてほしいと願っています。

初めての取組であった1年生への給食ボランティアの活動も、今月をもって終了します。

「えぶろん せんせい」の皆様より感想を頂戴しました。来年度も同様に計画いたしますので、来年度はさらに多くの皆様のお力添えをいただけますと幸いです。

○子どもの成長には驚くばかりです。身の回りに子どもがいないせいか接し方に戸惑いましたが、今は慣れて給食も楽しみになっています。また機会があればいいなと思うところです。

○一年生の給食のお手伝い「えぶろん せんせい」に参加しました。子どもたちがどのように準備し、食べているか気になったのがきっかけです。実際に体験してみると、配膳や片付けの作業は思っていたよりも大変で、時間に合わせてテキパキ動く必要があることを知りました。また、一年生の子どもたちに優しく声をかけながら教えるのは思った以上に難しく、先生方の苦労も身に染みて感じました。それでも「えぶろん せんせい!!」と声をかけてくれたり、楽しみに待っていてくれた子もいて、とても嬉しかったです。帰宅後は我が子と「今日の給食おいしかったね」と会話もでき、心温まる学びの多い時間となりました。」